文部科学省研究開発指定校
スーパー・イングリッシュ・ランゲージ・ハイスクール（SELHi）
高松第一高等学校
研究実践報告

A Case Report from Takamatsu Daiichi High School,

a Super English Language High School

Designated by Ministry of Education, Culture, Sports, Science and Technology

研究開発課題

実践的英語コミュニケーション能力の指導方法と,
自ら学ぶ態度や問題解決能力などを養う方策の研究：

言語使用を直接つかさどる心的モジュール群

言語使用を援助・促進する心的モジュール群

→ 相互の活性化を目指す。

言語形式の指導への偏り → 内容理解に重点を置く指導

Content-Based Instruction を中心とする指導は効果があるか？

英語技能以外(学習方法等)の指導は英語学習を促進するか？

（１）Sheltered Program

英語の授業：英語Ⅰ・Ⅱ，ライティングをTeam Teachingで実施。
原則英語。訳読を排し，グループ内での内容に関する英問英答を軸に。

（２）Content-Based Instruction（CBI)
数学と化学（１年），数学と生物（２年）の授業を週1時間ずつ実施。

香川大学工学部（数学），同農学部（数学，化学，生物）と本校とのCollaborationによる。

（３）海外校との交流

・米国バージニア州ジョージワシントン高校と文通交流中。

・英国Elliot Schoolとも調整中。

（４）外部団体，関連機関との連携

・運営指導，学習意識調査と学習方略調査の分析（青山学院大）

・大学教員出張講義の充実

平成16年度企画：『高松一高アカデミック・プログラム』（夏期集中講義）

（テンプル大，　ネバダ・カリフォルニア大国際教育機構，香川大）

・英語集中研修の実施

English in Action（国際教育協会）

・**留学生受け入れ**（JFIE）

（５）教員研修の充実

・市立校ではあり得なかった県主催，文科省主催の研修に参加

・平成14年度英語科教員へテンプル大英語教授法6時間集中出張講義

（６） コミュニケーション能力の評価

・平成１５年度ディスカッションテストを６月，９月，１２月，２月に実施（自校）
・平成１５年度インタビューテストを7月に実施（自校）
・平成１６年度スピーキングテストを５月にモニター実施（外部）
・ベネッセ『GTEC英語コミュニケーション能力テスト』（外部）

（７）校内全体の取り組み

・教室表示のバイリンガル化（平成14年度）

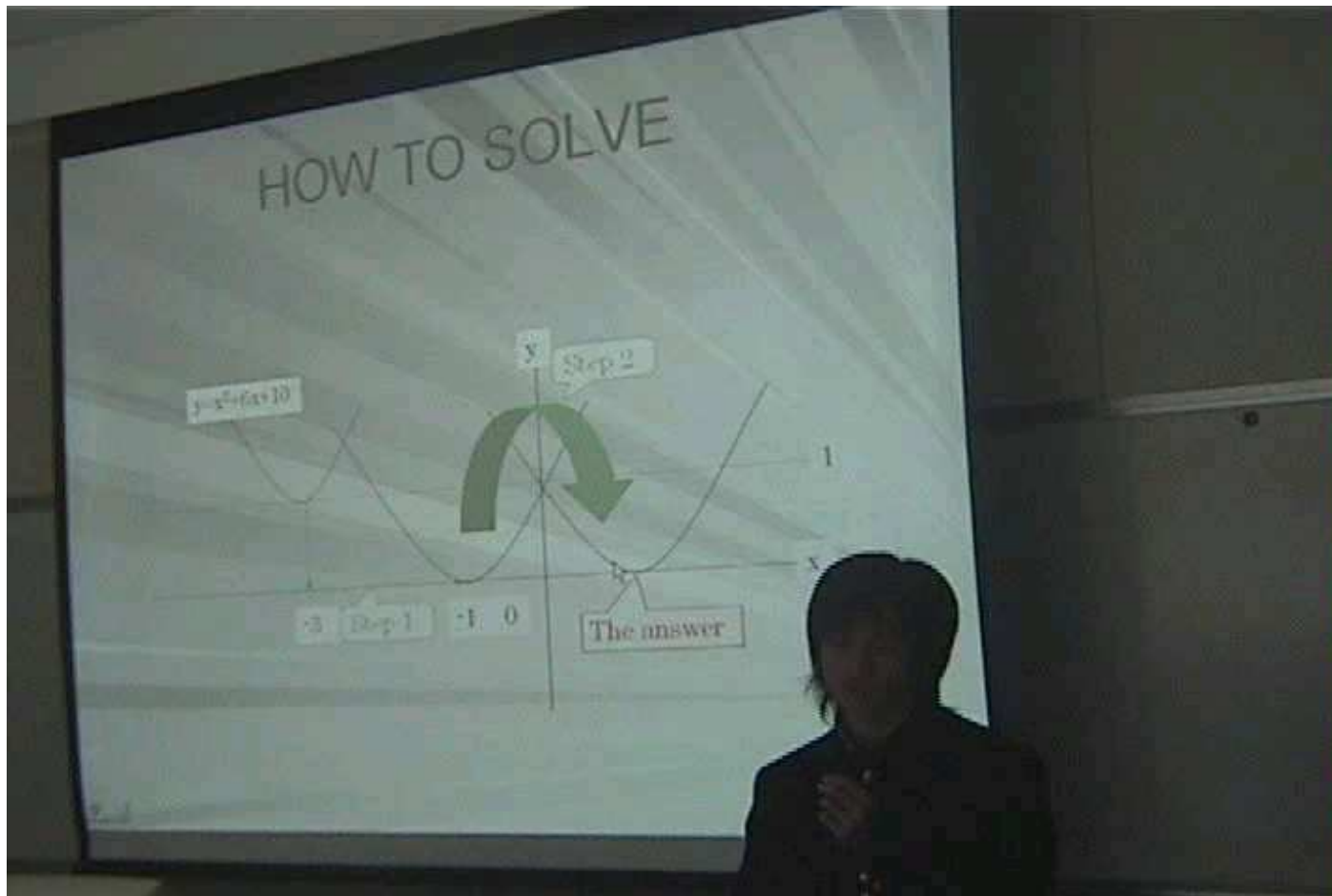
・図書館と英語科職員室前への洋書セットの設置

・図書館への検定教科書見本の配置

・留学生の配置
　同時に国語科教員からの日本語指導および関係職員による部活動指導

・地域の人材の活用
　平成15年度「ローラさんの英会話教室」土曜日不定期に実施

（８）その他

・対象生徒への「プロジェクト課題」と「プレゼンテーション課題」
「総合的な学習の時間」の取り組みとして

今までに得られた結果

- 理科，数学科教員の感想
- 英語科教員の感想
- 生徒の感想
- 『GTECベネッセ英語コミュニケーション能力テスト』
  から英語学力の変化
- CAN-DO調査，学習方略調査，学習意識調査

CBIの可能性について

実践的英語コミュニケーション能力と自ら学ぶ態度や問題解決能力などの指導に関する観点から

- 理科，数学科教員から

数学に関する基礎事項の復習になる（数学）

自然科学に関するさまざまな表現方法が身に付く（化学）

普段の化学の授業（説明・実験）と異なるアプローチが新鮮（化学）

異なるアプローチにより理解が深まる（生物）

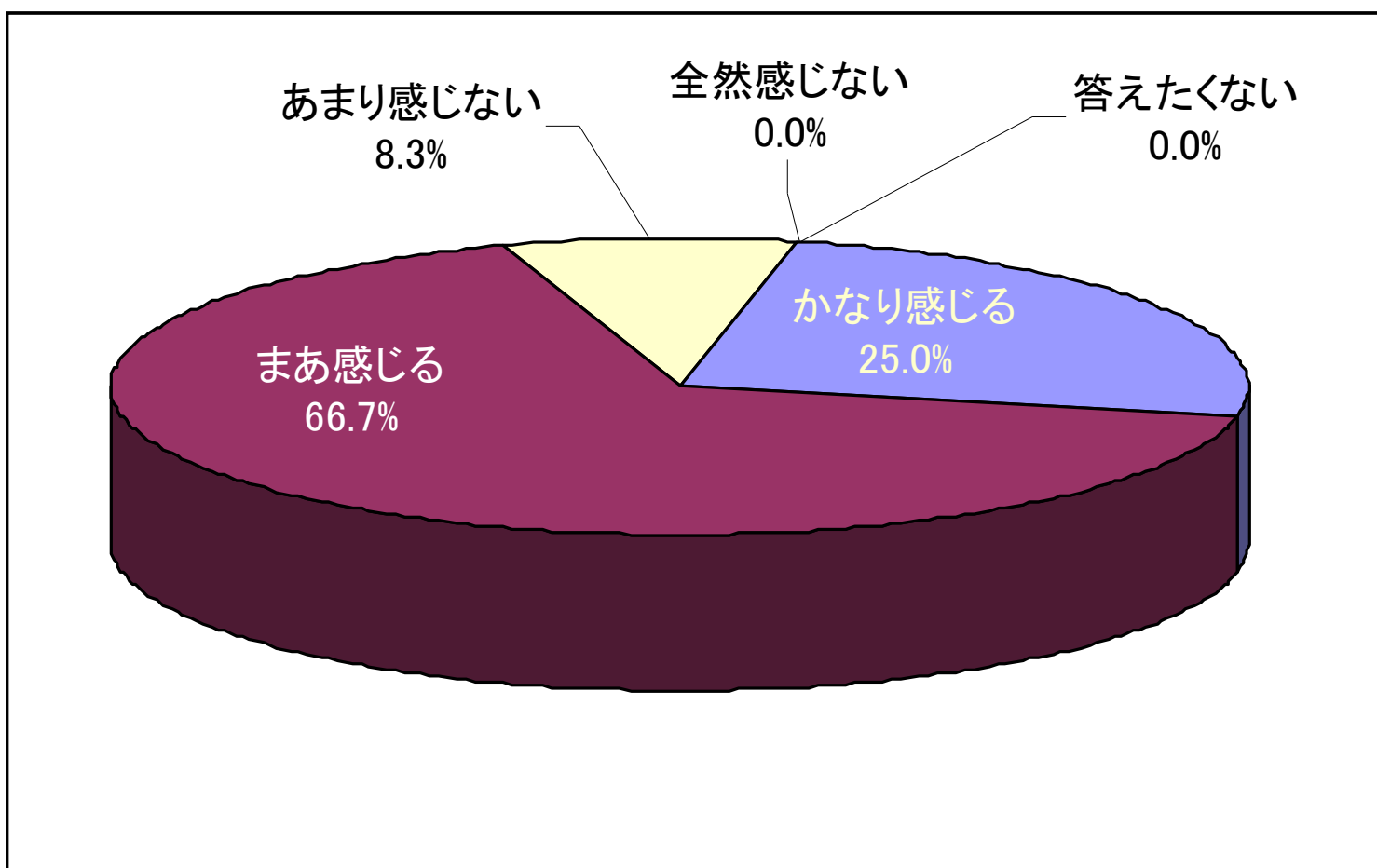
指導者が日本語を話さないと意味交渉を工夫する（生物）

- 英語科教員から

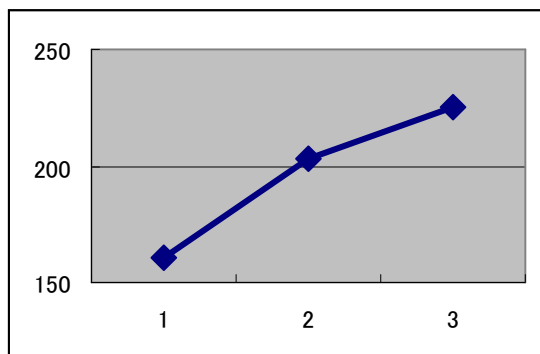
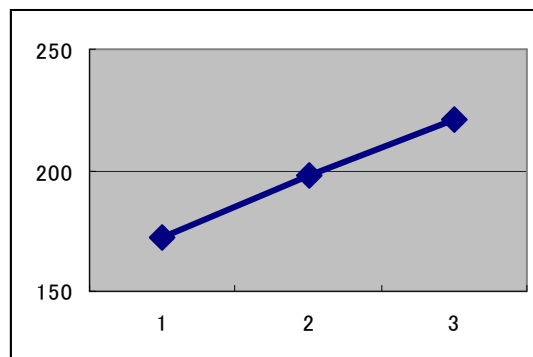
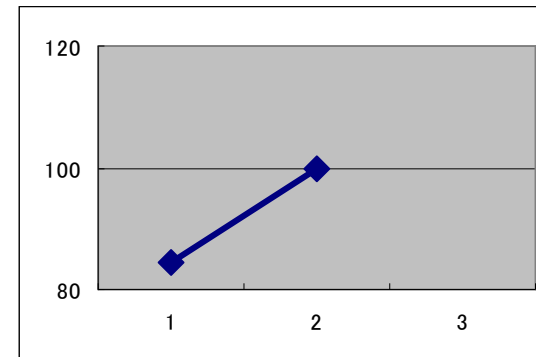
検定教科書では扱っていない内容・表現を導入できる

内容と形式の指導をそれぞれ意図的に際だたせることができる。

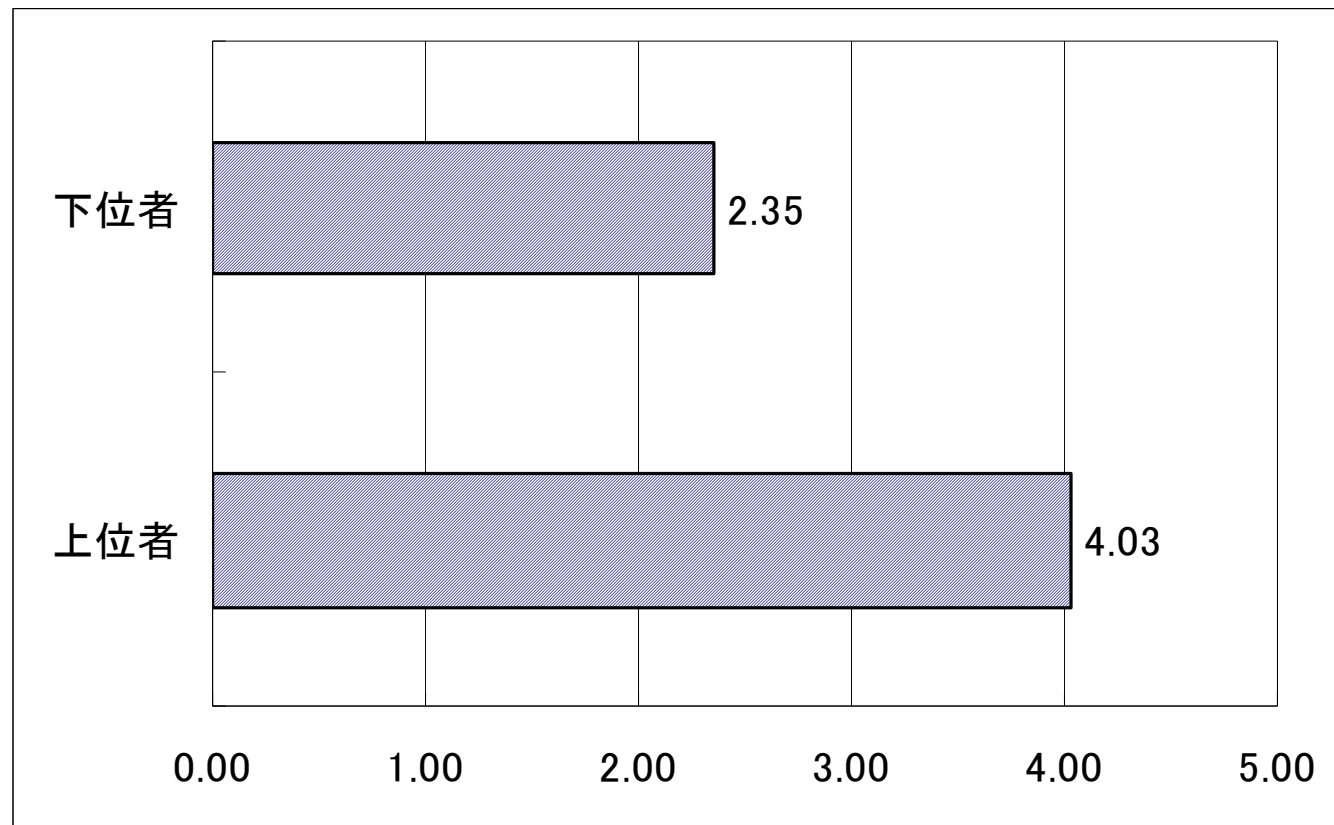
- 生徒の感想(アンケートから)

英語で他の科目を勉強することに何らかのメリットを感じますか？
（今年度２年生対象生徒３６名から回収）

ベネッセコーポレーション
『GTEC英語コミュニケーション能力テスト』
通時的変化

	n	Reading Mean	Reading SD	Listening Mean	Listening SD	Writing Mean	Writing SD
04/2003	32	160.66	19.40	172.22	39.17	84.38	14.58
12/2003	32	203.28	22.74	198.28	32.38	100.00	14.14
07/2004	32	224.94	31.05	220.63	35.81		

Reading

Listening

Writing

意　識

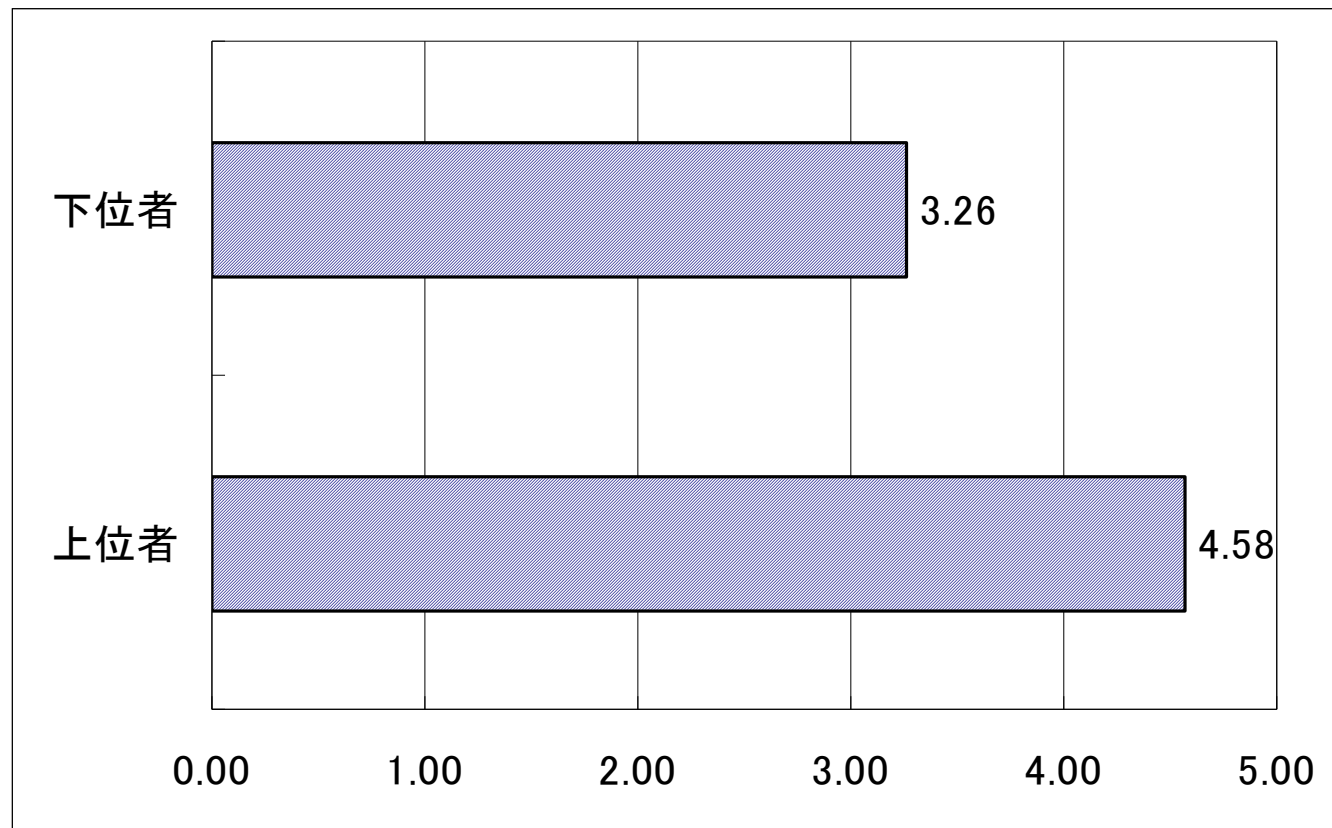
英語学習意識調査から

Reading 成績　上位10%と下位10%の差が大きい上位10項目

① 18. 英語自体が好きだから英語の学習は好きである。

英語学習意識調査から

Reading 成績　上位10%と下位10%の差が大きい上位10項目

① 18. 英語自体が好きだから英語の学習は好きである。

② 1. 英語の本、雑誌、新聞などを読む力を伸ばしたいと思う。

英語学習意識調査から

Reading 成績　上位10%と下位10%の差が大きい上位10項目

① **18.** 英語自体が好きだから英語の学習は好きである。

② **1.** 英語の本、雑誌、新聞などを読む力を伸ばしたいと思う。

③ **4.** ラジオ、テレビまた映画の英語を聞く力を伸ばしたいと思う。

④ 20. 外国人の先生とコミュニケーションがとれるから英語の学習は好きである。

⑤ 19. 将来役立つと思うから英語の学習は好きである。

⑥ 17. 授業が分かるから英語の学習は好きである。

⑦ 24. 小さな数人のグループで英語を学習するのが好きである。

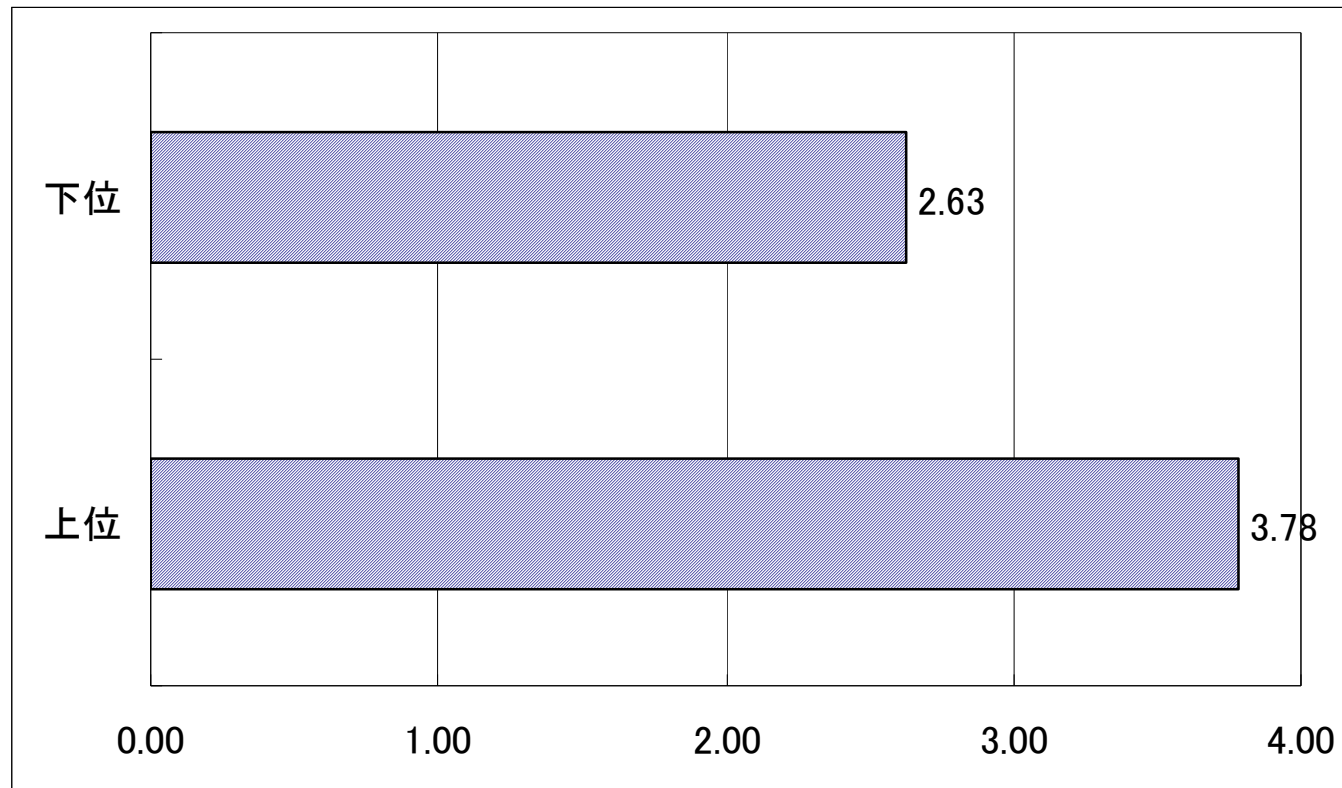
⑧ 2. 英語で手紙やEメールなどを書く力を伸ばしたいと思う。

⑨ 43. 授業で会話の練習は大切である。

⑩ 27. CD, MDやカセットテープを使って英語を学習したいと思う。

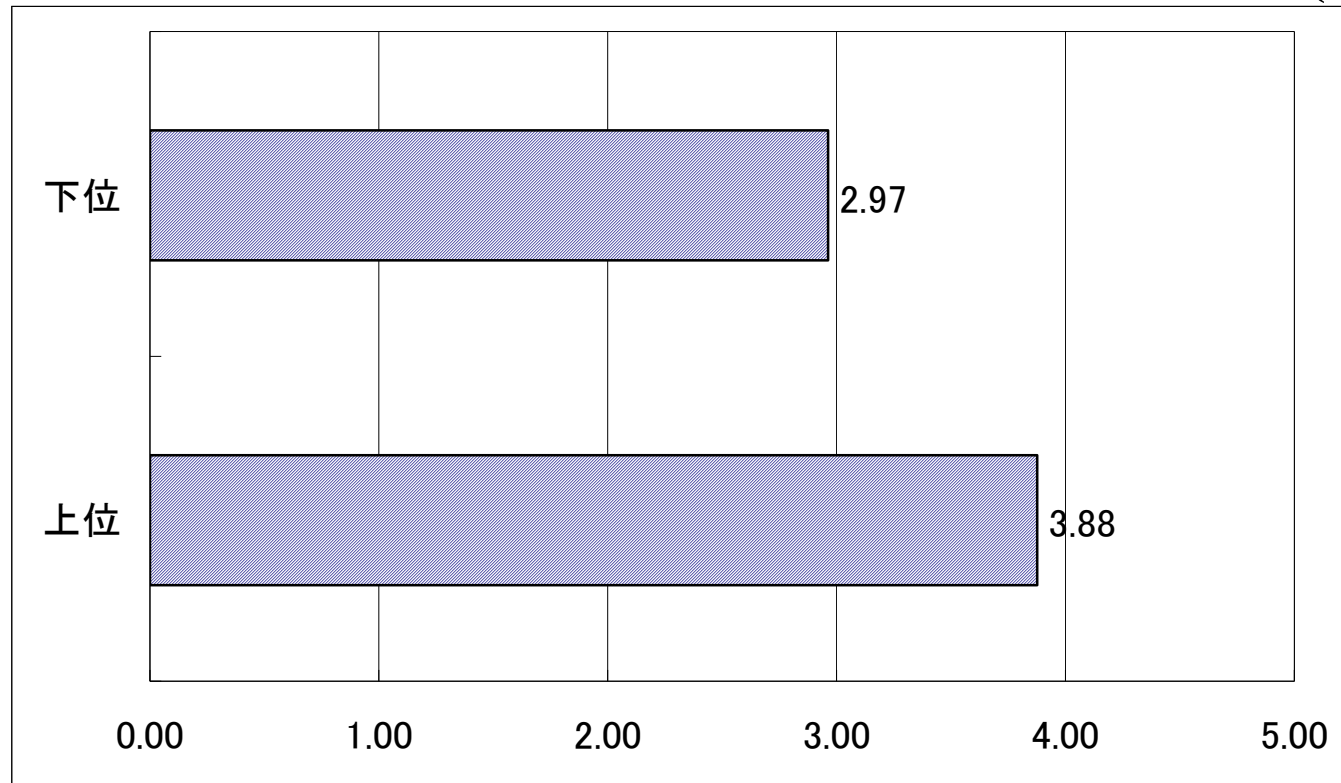
英語学習意識調査から

Listening 成績　上位10%と下位10%の差が大きい上位10項目

① 18. 英語自体が好きだから英語の学習は好きである。(1.15)

英語学習意識調査から

Listening 成績　上位10%と下位10%の差が大きい上位10項目

① 18. 英語自体が好きだから英語の学習は好きである。(1.16)

② 24. 小さな数人のグループで英語を学習するのが好きである。(0.91)

英語学習意識調査から

Listening 成績　上位10%と下位10%の差が大きい上位10項目

① **18.** 英語自体が好きだから英語の学習は好きである。**(1.16)**

② **24.** 小さな数人のグループで英語を学習するのが好きである。**(0.91)**

③ 20. 外国人の先生とコミュニケーションがとれるから英語の学習は好きである。(0.84)

④ 26. 学校以外で英語を学習するのが好きである。(0.84)

⑤ 17. 授業が分かるから英語の学習は好きである。(0.81)

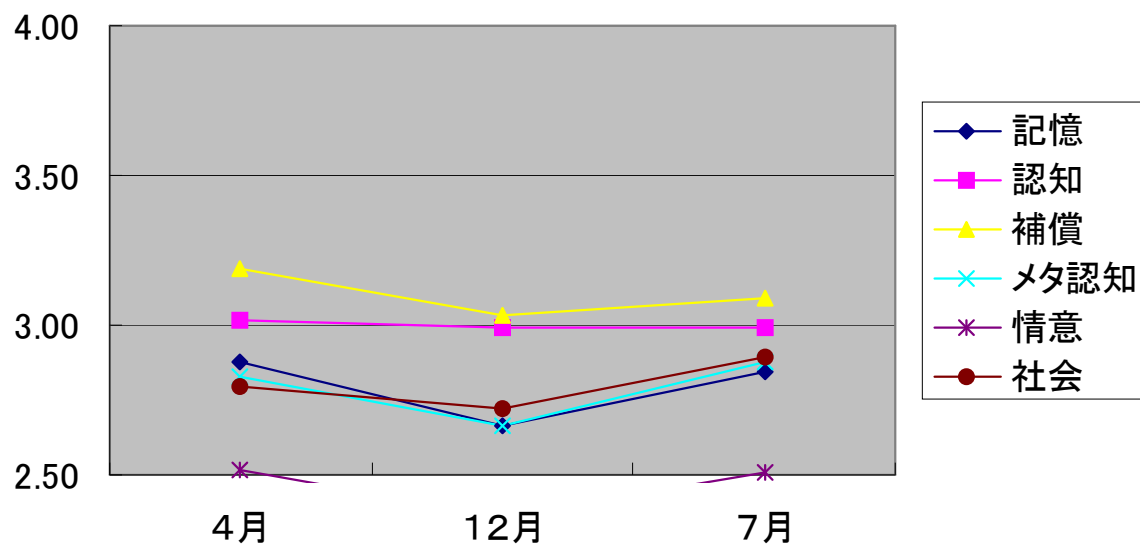
⑥ 23. ペアで英語を学習するのが好きである。(0.78)

⑦ 25. クラス全員で英語を学習するのが好きである。(0.75)

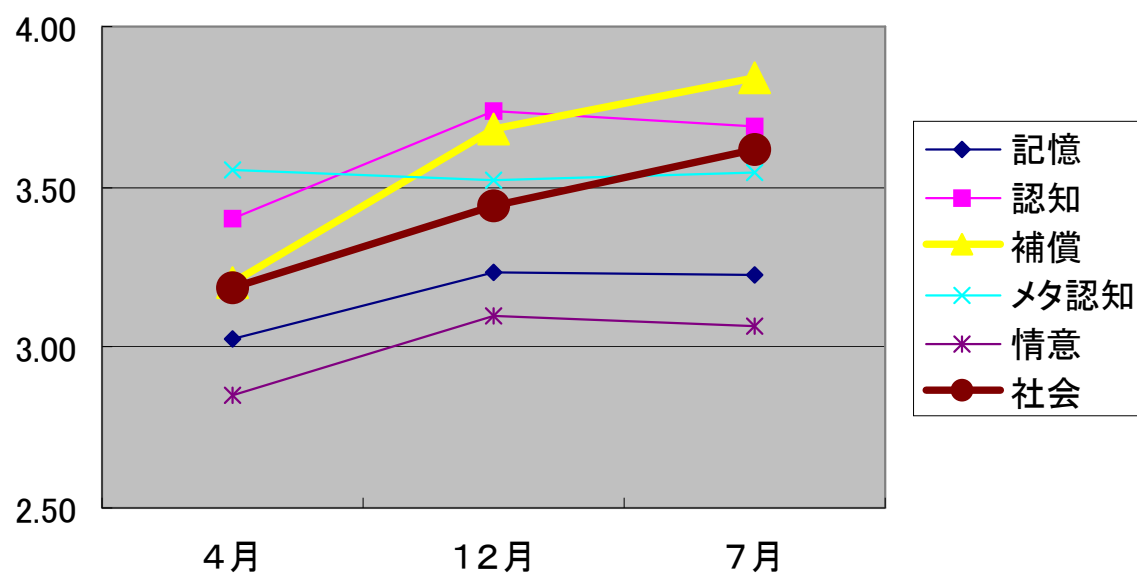
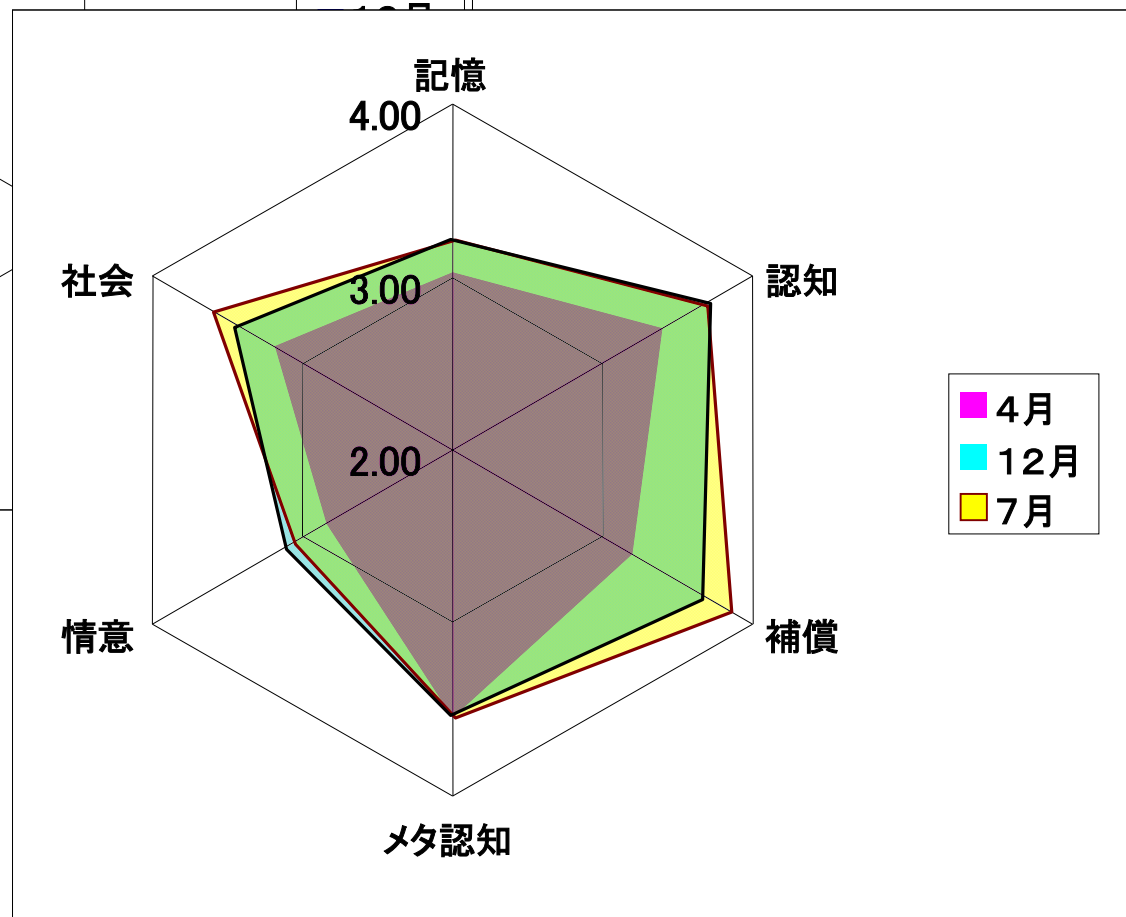
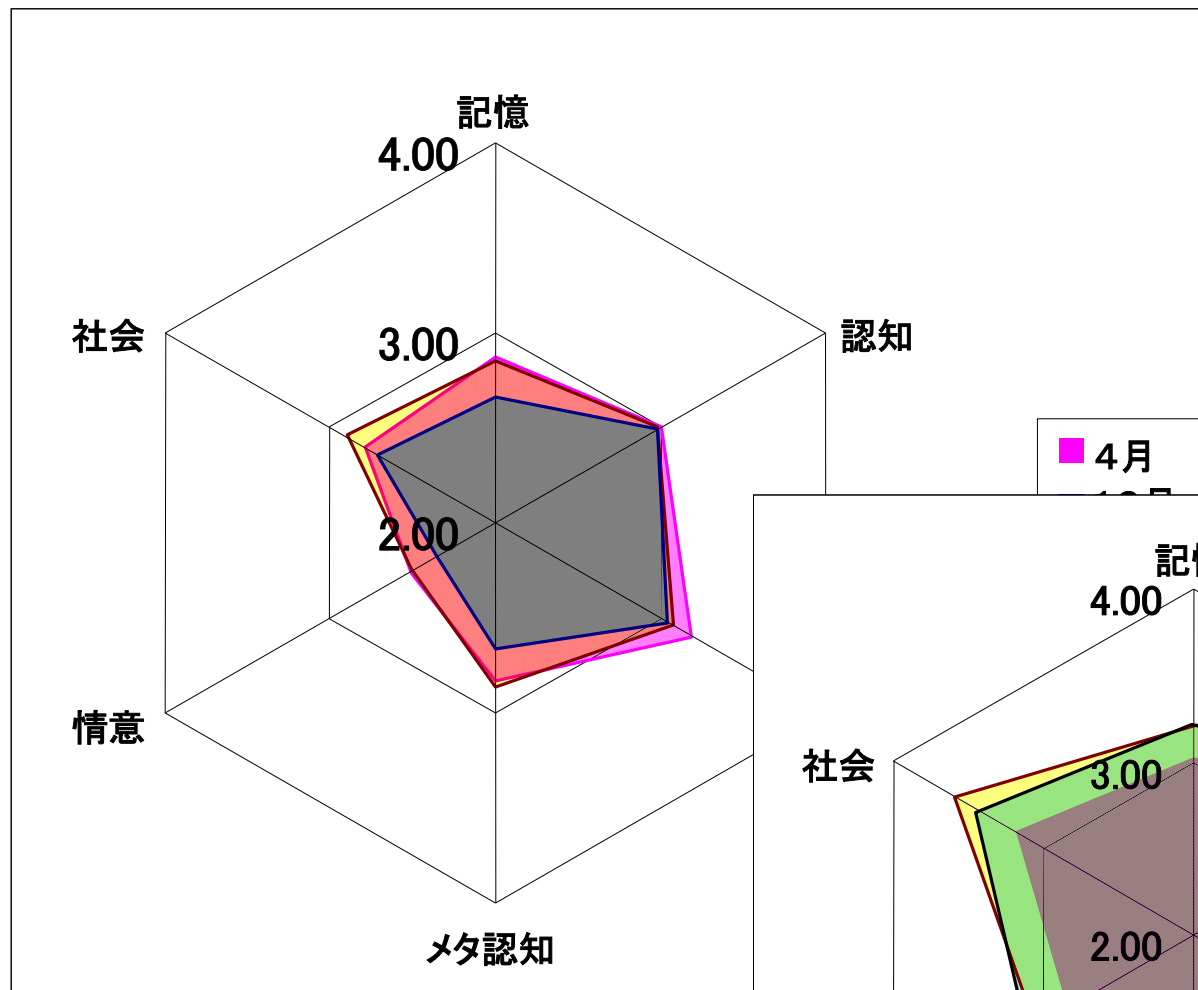
35. パソコンを使って英語を学習したいと思う。(0.75)

44. 授業で間違えたところの訂正は大切である。(0.75)

⑩ 47. 授業で生徒自身が間違いを発見することは大切である。(0.72)

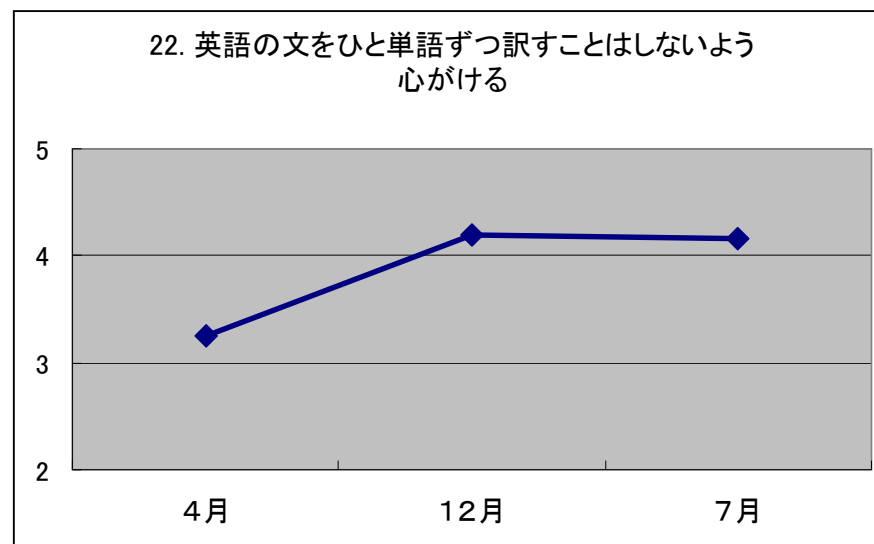
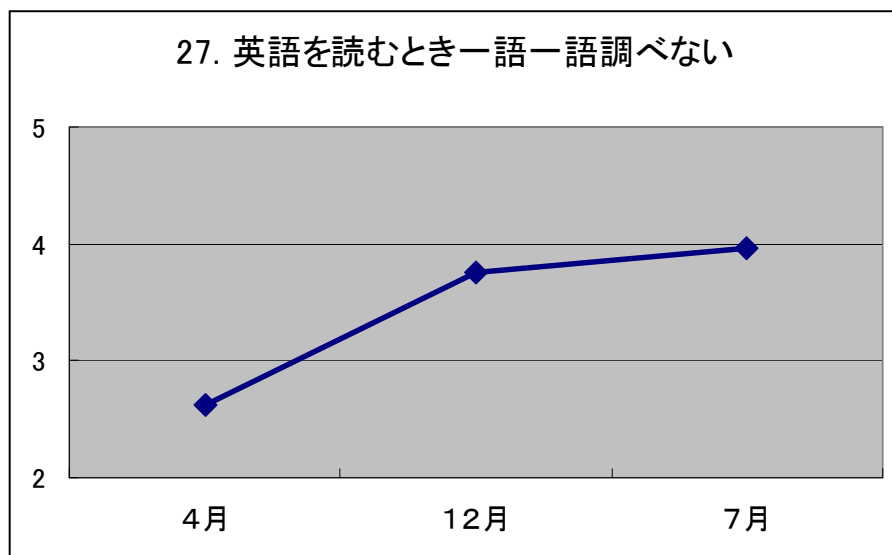
方　略
（ストラテジー）

ストラテジー使用度合いの通時的変化

（Oxfordの分類に従って）

記憶
4.00
社会
3.00
認知
2.00
情意
メタ認知
4月
記憶
4.00
社会
3.00
認知
2.00
情意
補償
メタ認知
4月
12月
7月

Reading 成績上昇生徒(24)の学習ストラテジー使用向上率上位

１年生４月ー ２年生７月変化率の平均

① 27. 英語を読むとき一語一語調べない。(1.42)　2.58ー3.79ー4.00

② 22. 英語の文をひと単語ずつ訳すことはしないよう心がける。(0.96)　3.21ー4.17ー4.17

Reading 成績上昇生徒(32)の学習ストラテジー使用向上率上位

１年生４月ー２年生７月変化率の平均

① 27. 英語を読むとき一語一語調べない。(1.34)　2.63－3.75－3.97

② 22. 英語の文をひと単語ずつ訳すことはしないよう心がける。(0.91)　3.25－4.19－4.16

③ 28. 他の人が次に英語で何と言うか推測しようと心がける。(0.75)

④ 46. 話しているとき、英語のネイティブ・スピーカーに間違いを直してもらう。(0.75)

5. 新しく出てきた単語を覚えるのに単語の最後の音が同じものどうしを連想させて使う。(0.69)

⑥ 48. 困った時、英語のネイティブ・スピーカーからの助けを求める。(0.69)

⑦ 25. 英語での会話中に適切な語が思いつかないとき、ジェスチャーを使う。(0.63)

⑧ 15. 英語のテレビ番組や英語の映画を見る。(0.56)

⑨ 26. 英語で適切な語がわからないときには新しい単語を作る。(0.56)

39. 英語を勉強しているときや使っているときに、緊張しているか神経質になっているか気づく。(0.56)

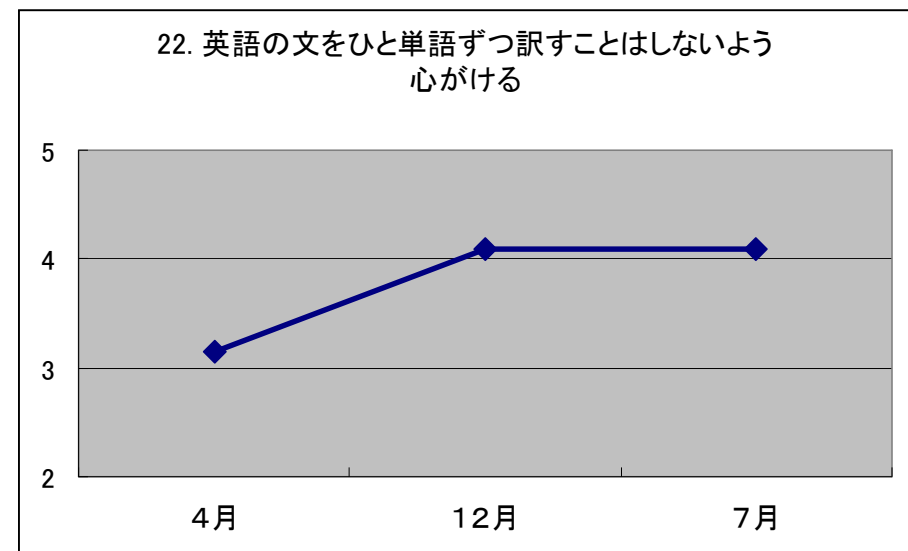
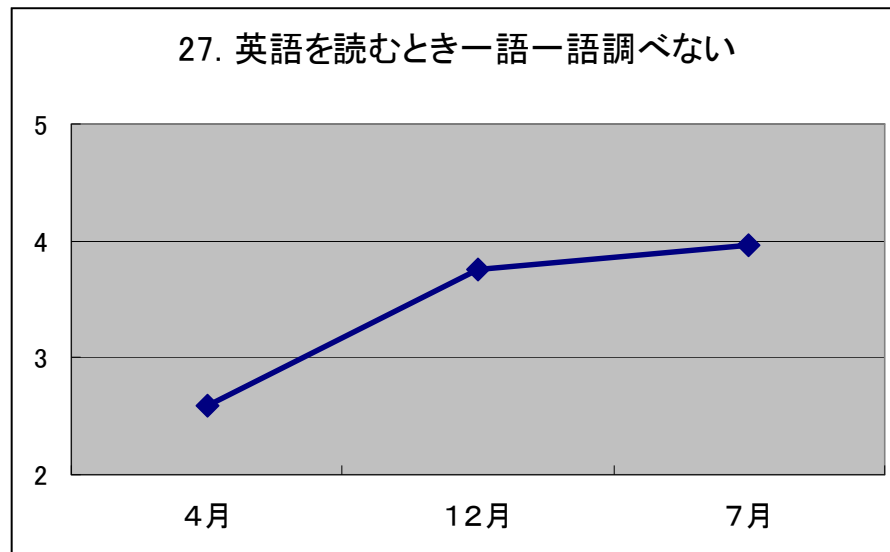
記憶ストラテジー，認知ストラテジー，補償ストラテジー

メタ認知ストラテジー，情意ストラテジー，社会ストラテジー

Listening 成績上昇生徒(21)の学習ストラテジー使用度向上率上位

１年生４月－２年生７月変化率の平均

①27. 英語を読むとき一語一語調べない。(1.24)　2.67 － 3.71 － 3.90

②22. 英語の文をひと単語ずつ訳すことはしないよう心がける。(0.95)　3.24 － 4.10 － 4.19

Listening 成績上昇生徒(29)の学習ストラテジー使用度向上率上位

１年生４月ー２年生７月変化率の平均

① 27. 英語を読むとき一語一語調べない。(1.38)　2.59－3.76－3.97

② 22. 英語の文をひと単語ずつ訳すことはしないよう心がける。(0.96)　3.14－4.10－4.10

③ 5. 新しく出てきた単語を覚えるのに単語の最後の音が同じものどうしを連想させて使う。(0.79)

④ 28. 他の人が次に英語で何と言うか推測しようと心がける。(0.79)

⑤ 25. 英語での会話中に適切な語が思いつかないとき、ジェスチャーを使う。(0.76)

⑥ 46. 話しているとき、英語のネイティブ・スピーカーに間違いを直してもらう。(0.69)

⑦ 15. 英語のテレビ番組や英語の映画を見る。(0.62)

⑧ 26. 英語で適切な語がわからないときには新しい単語を作る。(0.62)

⑨ 48. 困った時、英語のネイティブ・スピーカーからの助けを求める。(0.62)

⑩ 4. 単語が使われる場を心に想像して新しく出てきた単語を覚える。(0.59)

記憶ストラテジー，認知ストラテジー，補償ストラテジー

メタ認知ストラテジー，情意ストラテジー，社会ストラテジー

CAN-DO

CAN-DO調査結果　37／40項目で2年生の得点が高い

1. 英語教科書の本文を声に出して読む
2. 英語教科書の本文を読んで理解する
3. 英語教科書の本文を耳で聞いて理解する
4. 教科書内容について、先生による英語での説明（オーラル・イントロダクション）について
5. 授業中の教科書内容についての英問英答について
6. 授業時間外で、英語のネイティブ・スピーカーの先生との、英語での自由な会話について
7. 辞書を引くとき
8. ペアワーク（２人で行う英語を使った活動）について
9. グループワーク（グループで行う英語を使った活動）について
10. 英語でのインタビュー
11. 英語でのスピーチ
12. 英語でのプレゼンテーション
13. 英語でのロール・プレイ
14. 英語でのディスカッション
15. 英語でのディベート
16. 英語でのスキット・劇
17. 英語での日記
18. 教科書本文内容のサマリー（概要）を英語で書く
19. 英語での言い換えについて
20. 英語での聞き返しについて
21. 英語を使う場面でのジェスチャーについて
22. 英語の聞き取り
23. 英語での自己紹介
24. 英語での電話
25. 英語での説明（例えば、英語で道をたずねられたり、切符の買い方をたずねられたとき）
26. 自分の好きな洋楽アーティスト（歌手、音楽グループ）の英語の歌
27. 英語で書かれたインターネットのホームページ
28. 英語で書かれた「レシピ」（料理の作り方）
29. 教科書以外で、自分から進んで読む英語の本
30. 英字新聞
31. 英語での電子メールや手紙を受け取ったとき
32. 英語で書かれた説明書（例えば、電気製品などの取扱説明書や薬の飲み方）
33. 英語の天気予報
34. NHKのラジオ英語講座
35. テレビ・ラジオでの英語音声のニュース
36. 英語音声の映画・ビデオ・DVD
37. 英語で書くはがきやカード
38. 英語で書く日記
39. 英語で書く電子メールや手紙
40. 英検（日本英語検定協会の実用英語技能検定）について

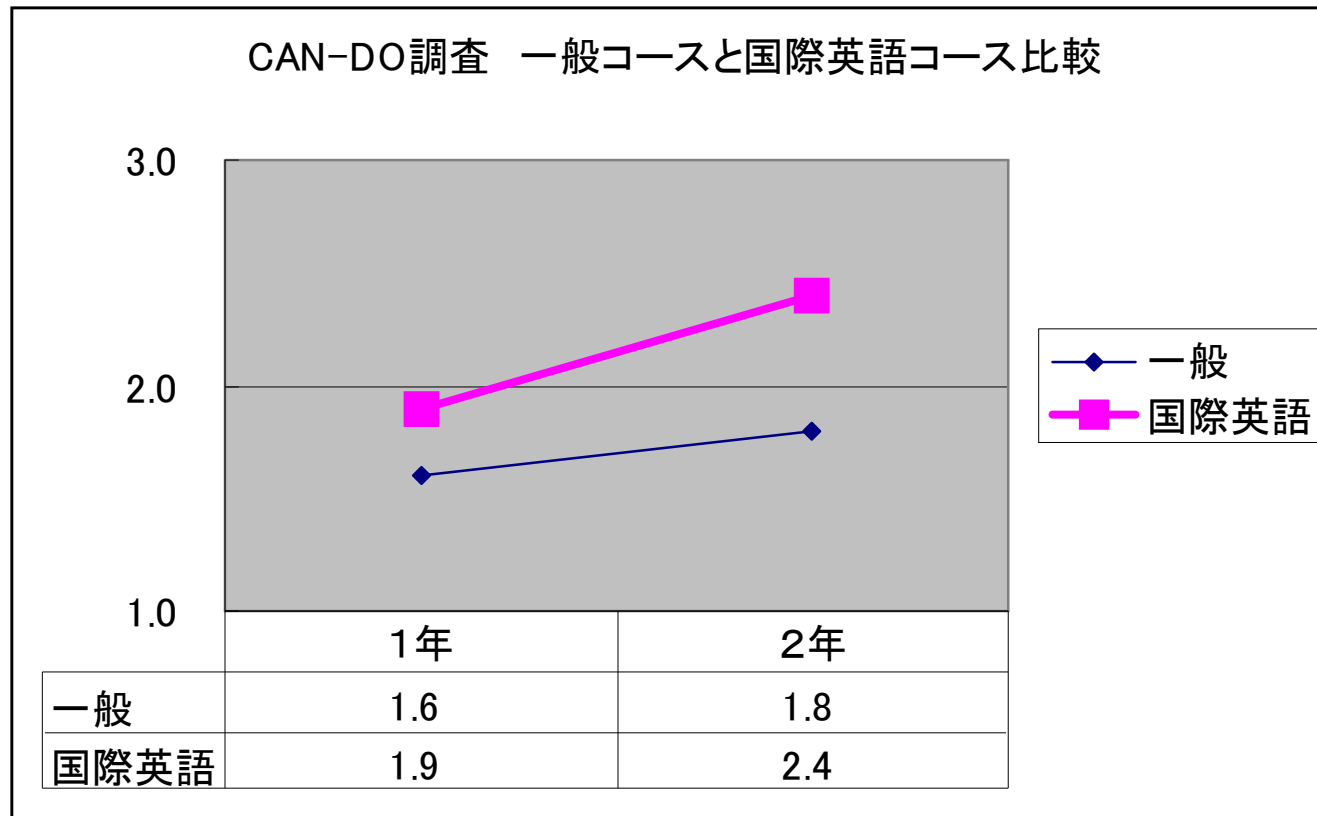
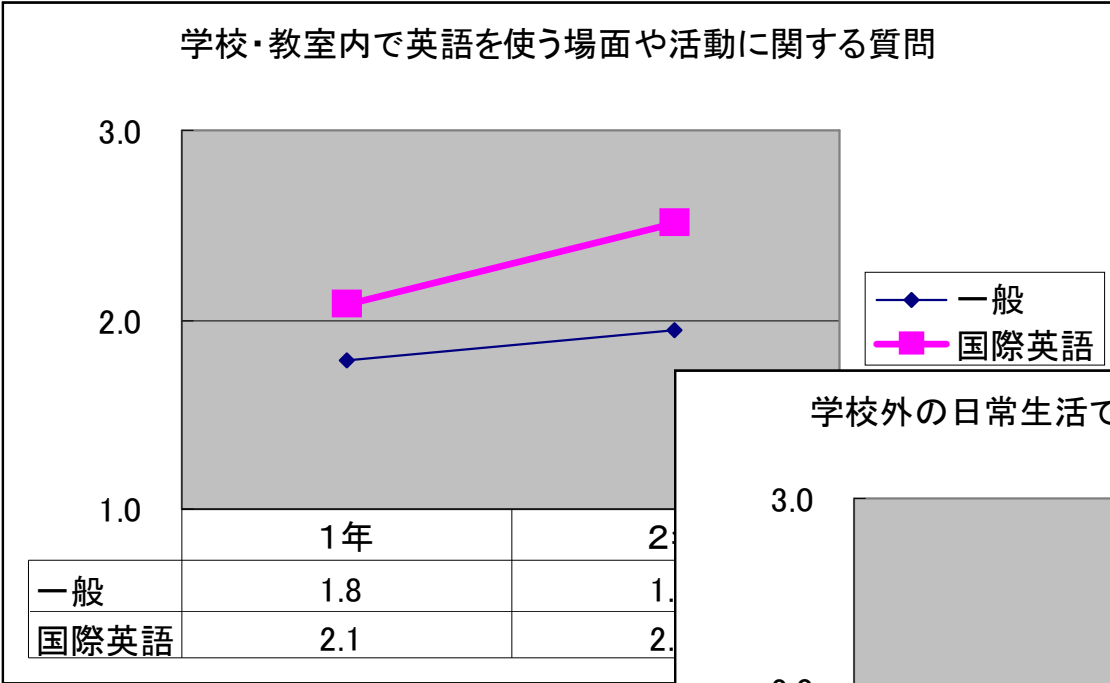
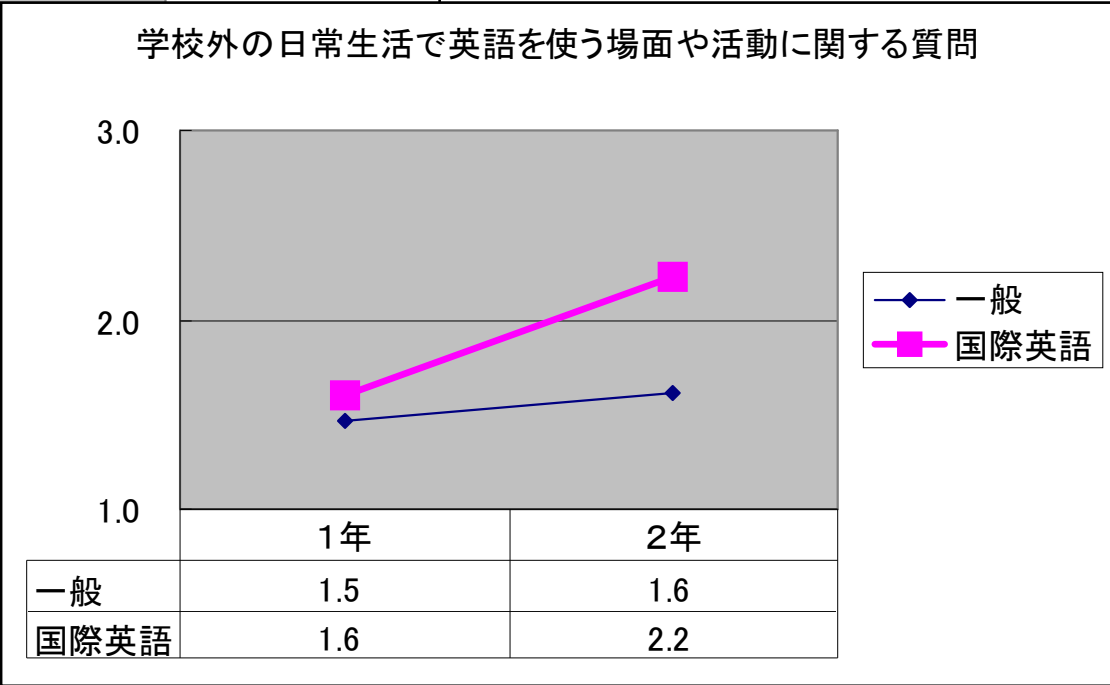
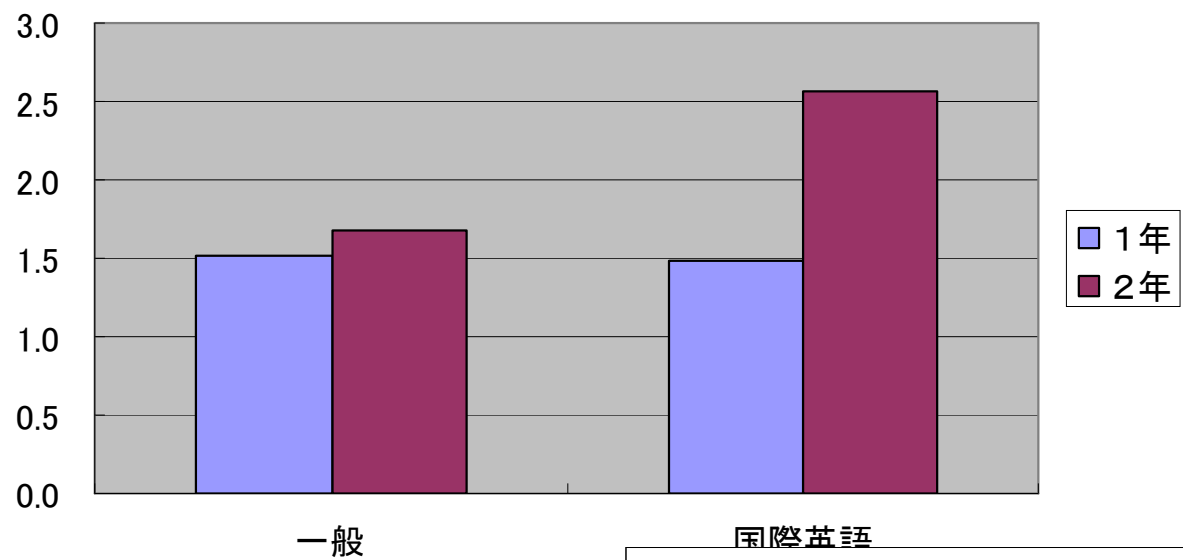
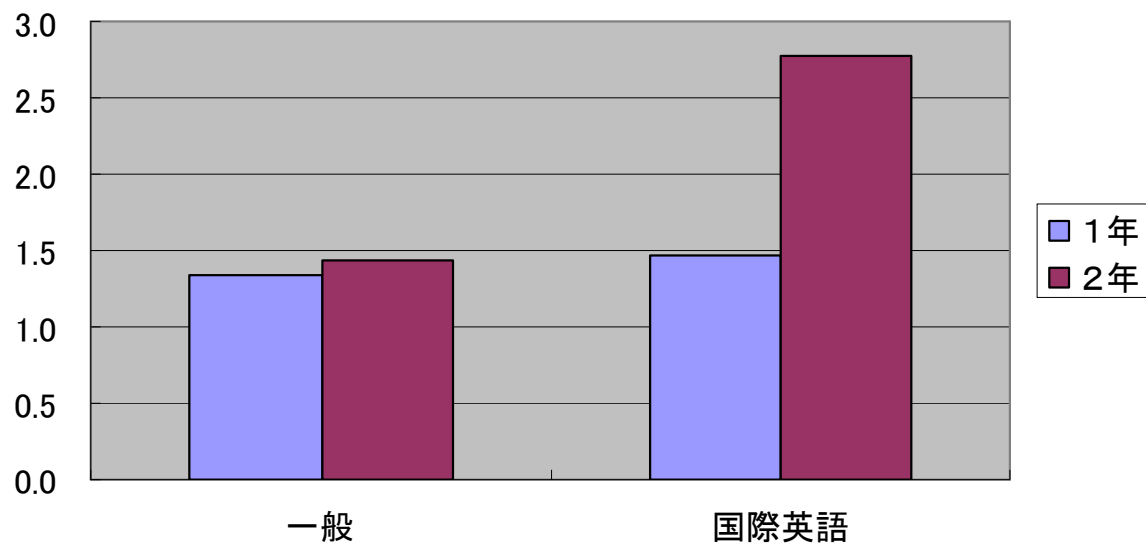
CAN-DO調査全項目平均値比較

（学校内活動と学校外活動）

	1年	2年
一般	1.6	1.8
国際英語	1.9	2.4

CAN-DO調査

学校・教室内で英語を使う場面や活動に関する質問
3.0
2.0
1.0
一般
国際英語
1年
一般 1.8
国際英語 2.1
学校内活
学校外活動
学校外の日常生活で英語を使う場面や活動に関する質問
3.0
2.0
1.0
一般
国際英語
1年 2年
一般 1.5 1.6
国際英語 1.6 2.2

CAN-DO 22 英語の聞き取り
3.0
2.5
2.0
1.5
1.0
0.5
0.0
一般
1年
2年
CAN-DO 37 英語で書くはがきやカード
3.0
2.5
2.0
1.5
1.0
0.5
0.0
一般
国際英語
1年
2年

考　　察

① Content-Basedのアプローチをとることで学習ストラテジーに変化が生じる。

② 英語技能以外の向上を意識させることで学習意識にも変化が生じる

③ 学習ストラテジーと学習意識が変化することで英語学力が向上する。

④ 学力向上には特定のストラテジーと意識が関わっている可能性が高い。

結　論

① **Content-Based Instruction** を中心とする指導は，特定の学習ストラテジー使用を増加させるため，英語力向上に効果がある。

② 英語技能以外の指導も，生徒の学習ストラテジー使用の増加と学習意識変化につながる場合には，英語学習を促進する。

今後の課題

最終的には自律的学習者の育成

↓

どのように促し，どのように個々の到達度を評価するか？